



DENSO
Crafting the Core



株主のみなさまへ

第96期 中間事業報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

株式会社 **デンソー**
(証券コード 6902)



豊かで安心な社会づくりに貢献し、
社会のみなさまに心の底から
共感していただける会社を目指します。

2018年度第2四半期の振り返りと通期の見通し

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年度第2四半期の業績は、グローバルな生産増加や拡販の一方、将来の成長領域への投資加速等により、売上収益は2兆6,250億円、営業利益は1,524億円と増収減益となりました。通期の見通しについては、第2四半期の業績および為替の実績等を踏まえ、売上収益は5兆4,000億円、営業利益は3,930億円と上方修正いたします。2025年度までに売上収益7兆円、営業利益率10%という長期戦略の実現に向けて、さらなる成長を目指してまいります。

株主のみなさまへの利益還元は、当中間配当・期末配当ともに5円ずつ増配し、年間では当初予想から10円増配の140円を予定しております。また、みなさまへの一層の利益還元と資本効率向上のため、600万株または300億円を上限とする自己株式の取得と、併せて612万株の自己株式消却を10月31日の取締役会にて決議いたしました。今後も株主のみなさまへの利益還元のため、一層の努力を重ねてまいります。

共感していただける会社となるために

デンソーは創業以来、社是や基本理念、これまでの長期ビジョンを通じて、常に社会の持続可能性を考えてまいりました。2030年に向けた長期ビジョンにおいても、「環境」と「安心」の分野での新たな価値提供を通じ、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。この経営思想を事業活動に結びつけ、社会の持続的発展と、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」への貢献を果たしていくために、2018年7月に当社の優先取組課題を明確化いたしました。

「環境」の分野では、電動化車両向け製品などの環境負荷を低減する製品の開発および普及に努め、CO₂の排出量削減を目指します。また、「安心」の分野では、先進安全や自動運転に関連する製品の開発および普及を加速させることで、交通事故の低減を目指します。そのほか、サプライ

チェーンを含めた人権尊重や、ガバナンスの強化など、計15項目の優先取組課題を設定し、効果的な活動へ落とし込み、推進してまいります。

デンソーの優先取組課題

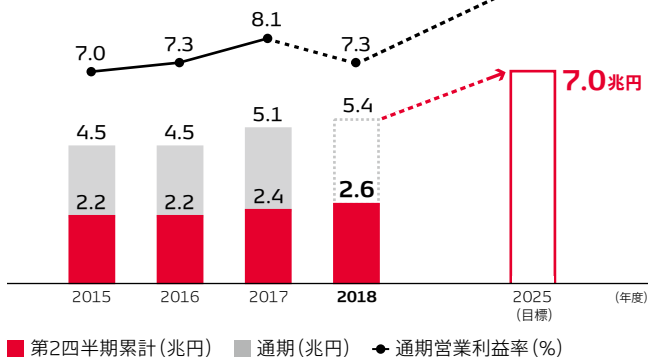


より良い未来を次世代に届けるため、情熱と笑顔で、豊かなモビリティ社会の実現と社会全体の持続的発展に貢献すべく、取り組んでまいります。引き続きみなさまの変わらぬご支援を、よろしくお願い申し上げます。

取締役社長 **有馬 浩二**

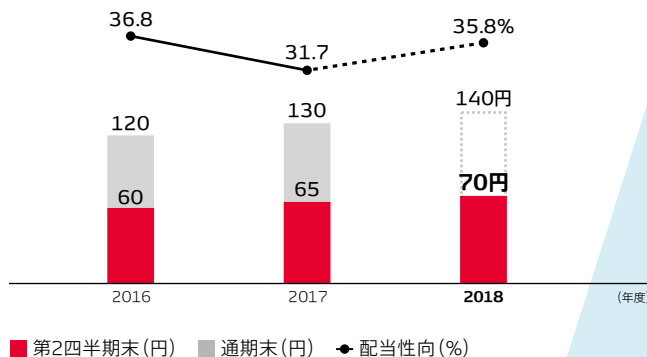
2025年度成長目標

売上収益／営業利益率



株主還元

1株当たり配当金／配当性向



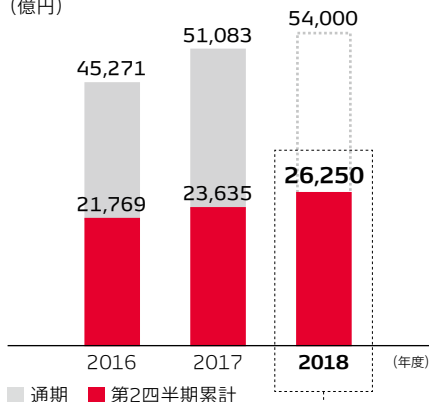
連結業績ハイライト

売上収益

2兆6,250億円

前年同期比11.1%▲

(億円)

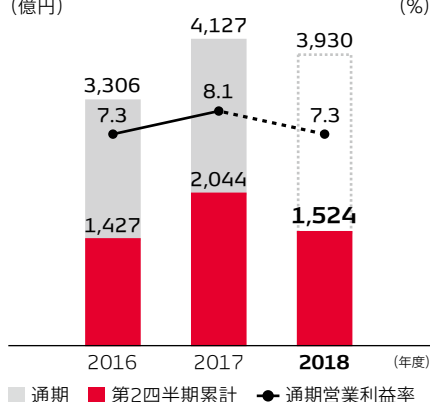


営業利益

1,524億円

前年同期比25.5%▼

(億円)



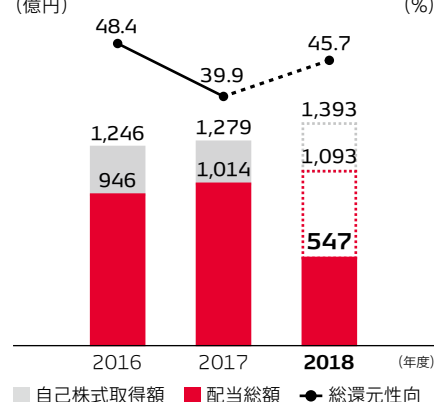
総還元額／総還元性向*1

1,393億円／45.7%

(2018年度末見込み)

(億円)

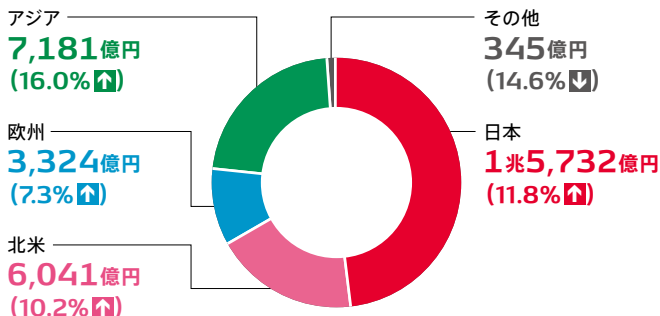
(%)



*1. (配当総額＋自己株式取得額)／親会社の所有者に帰属する当期利益

地域別売上収益*2

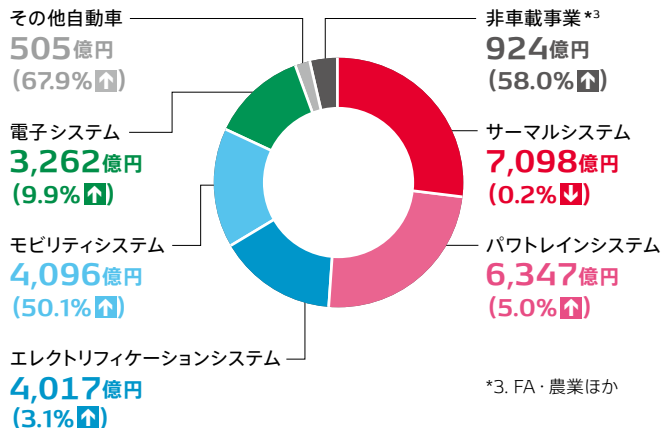
()内は前年同期比



*2. 地域別売上収益は、セグメント間の内部売上収益を含みます。

製品別売上収益

()内は前年同期比



*3. FA・農業ほか

※ 国際会計基準 (IFRS) に基づいて作成しています。なお2018年度通期は見込みを記載しています。

自動車業界が大変革期を迎える中、さらなる競争力強化のため、自動運転の実現と電動化の加速につながる合併会社設立の検討に合意しました。今後合併会社の詳細を検討し、2019年3月の設立を目指します。

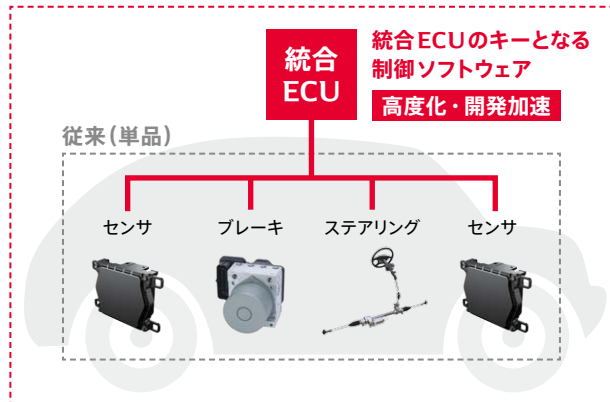
自動運転の普及に向けた開発体制を強化

統合 ECUソフト開発の 合併会社設立検討に合意

(アイシン精機(株)、(株)アドヴィックス、(株)ジェイテクト、(株)デンソー)

自動運転の実現には、クルマの「見る・走る・曲がる・止まる」に関わるセンサやステアリング、ブレーキを高度に組み合わせる「判断する」統合 ECUが必要になります。その統合 ECUの制御ソフトウェアの高度化と開発の加速に向け、4社が持つ自動運転領域の知見を結集した合併会社の設立検討に合意しました。4社の総力を結集し、誰もが、交通事故のない、安心・安全な移動を享受できるような社会の実現に貢献します。

今後(システム化)



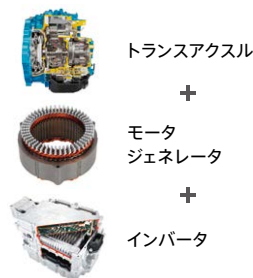
電動化の普及に向けた開発・販売体制を強化

駆動モジュール開発・販売の 合併会社設立検討に合意

(アイシン精機(株)、(株)デンソー)

これまでアイシン精機(株)とデンソーは、電動化の主要コンポーネントをそれぞれ開発してきました。電動化の普及を加速させるため、それらをパッケージとした駆動モジュールの開発・販売の合併会社の設立検討に合意しました。今回の合併会社では、ハイブリッド、電気自動車、燃料電池自動車など幅広い電動化ニーズに対応する駆動モジュールの品揃えにより、電気自動車市場の急拡大が見込まれる中国をはじめ、世界各地域への幅広い普及を目指します。両社の強みを結集し、地球温暖化、大気汚染、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献します。

従来(単品)



今後(パッケージ化)



幅広い自動車メーカーへ採用加速

詳細は当社ホームページをご覧ください。

<https://www.denso.com/jp/ja/news/news-releases/>



妥協は一切なし。 最先端の自動運転技術に挑む

情報化、知能化などの技術革新により、自動車業界をとりまく環境が大変革期を迎えている現在、デンソーはこれまで培ってきた技術力を高めると同時に、AIなど先端技術を活用した領域も強化させています。ここでは、組織や地域の垣根を越えて、自動運転の実現に向けたデンソーこだわりの開発アプローチをご紹介します。

先行開発

地の利を活かし、
パートナーとともにつくり込む

東京支社のAD&ADAS事業部は、AIなど先端技術の研究開発に取り組む大学や研究所、ベンチャー企業などが数多く集まっている東京で、最先端の技術開発に取り組んでいます。

例えば、車載カメラに写った物体を高精度に検出する画像センシング技術や、画像からさまざまな情報を認識し、



東京支社
AD&ADAS事業部
メンバー

周囲の状況を理解・予測するAIなどの開発を進めています。どんなに画期的な技術でも「安心・安全」が守られなければ完成したとは言えません。デンソーとして決して譲れないこだわりは堅持し、ご協力いただけるパートナーとともに、新技術を製品として実現したいと考えています。



ドライバーステータスマニタの開発を担当するコックピット技術2部メンバー

実証実験

安全にこだわる運転評価で、 自動運転に安心感をもたらす

先端技能開発部は、自動運転試験車両の製作やシステム評価を担っています。自動運転システムには常に最先端の高度な技術が導入され、またそのシステム評価はテストコースから公道、郊外から都市部、日本から海外へとより複雑な走路環境へ移行しています。2017年は国内累計8,000kmにも及ぶ公道評価を実施しました。徹底的な安全性の評価と“もしも”に備えた運転訓練を十分に実施した上で臨む公道試験では、常にデンソーの看板を背負っているという責任感を持っています。これからも開発部門と連携し、安全にこだわった製作と評価を行います。



自動運転システム
開発メンバー

製品開発

運転中の不注意や脇見を検知し、 安全をサポート

コックピット技術2部では、ドライバーの顔をカメラで撮影し、画像解析によりドライバーの状態を検出することで、運転中の不注意や脇見、居眠りなどを検知・注意喚起するドライバーステータスマニタ(DSM)の開発に取り組んでいます。買い替え寿命が長いバスやトラックでの重大事故が多発する中、これまで行ってきた新車へのDSM搭載では普及に時間がかかるため、既販車向けの後付けDSMを開発。グローバルな分散開発体制による分業と連携で、短期間での後付けDSMの量産開発を実現しました。

DSMは自動運転を実現する上でも欠かせない安全装置ですが、将来的にはドライバーの状況を車両が認識することで、安全性のみならず、個人認証やエアコンの温度調整、好みの音楽の自動演奏など、さまざまな機能の提供を可能にすることを目指します。高いレベルの安全性を維持しつつ、デンソーならではの快適・利便性の高いサービスという付加価値を世の中に届けていきます。

技術と技能の総智・総力で 電動化の未来をつくる

クルマの電動化が進展する中、電気自動車の開発は異業種も参入する激しい競争が繰り広げられています。一方で、クルマの電動化に必要な主要部品が担う機能はこれまで以上に高度化・複雑化し、クルマの特性を知り尽くしたデンソーの技術力を発揮する時が来ています。デンソーならではの強みを活かし、電動化の未来を切り開く取り組みをご紹介します。

製品開発

総合力で電動化の最前線を 切り開く

電気自動車に欠かせないモータやインバータ。これらの主要製品は、従来カーメーカの要求仕様に基づいて製品単体で設計するのが主流でした。しかし、電動化における開発競争を勝ち抜くためには、カーメーカの要求に応えるのみならず、デンソーらしい付加価値のある製品を生み出す必要があります。デンソーは競争力を高めるため、クルマの電動化システム全体を視野に入れた開発を試みています。この開発プロセスでは、カーメーカと開発の初期段階から連携し、システムに求められる要件から定義付けを行い、複数の製品とそれらをつなげるシステムをパッケージ化します。それによってクルマに乗る人の利用シーンまでを想定し、最適なソリューションの提案を実現しています。電動化システム全体の開発にあたっては、社内では部門の枠を



エレクトリフィケーション
システム開発部による
電動化システムの開発

インバータとは？

パワーコントロールユニットに組み込まれ、
バッテリーから出力される直流の電気を
モータで使える電気に変換する装置





エレクトリフィケーション機器製造部 インバータの製造ライン

超え、社外ではカーメーカや研究機関と連携を図り、チームメンバーの技術と技能を結集して、試行錯誤を繰り返しました。今後もこの開発モデルの最適化と効率化を図り、より多くの人に喜ばれる快適なクルマづくりに貢献します。



生産

高まる電動化ニーズを 製造面から支える

2015年ごろから電動化分野は急成長を続け、今後も世界中で電動化関連製品の生産量の増加が予想されます。デンソーでは、世界中のお客様に高品質な製品を届けられるよう、世界標準ラインの構築に取り組んでいます。電動化の中でも重要な役割を担うインバータはデンソーの幅広い技術を結集した製品かつ、カーメーカごとに要求が細かく異なるオーダーメイド製品のため、製造工程が複雑です。また、製品の進化も早いいため、実現は極めて難しいと言われる中、デンソーでは、製品開発と生産技術開発を並行して進めるコンカレントエンジニアリングを開発の初期段階から導入。開発チームと生産チームが一体となり、製品の設計テーマと製造テーマをリンクさせながら活動を進めています。さらに、今後の海外生産の拡大に向けて、共通意識を持ってグローバル展開が図れるよう、現地スタッフも開発に携わることで、世界標準ラインの完成度を高めています。

四半期連結財務諸表 国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

連結財政状態計算書 (単位: 百万円)

科目	2018年度 第2四半期末	2017年度末	科目	2018年度 第2四半期末	2017年度末
資産			負債及び資本		
流動資産	2,616,018	2,563,833	流動負債	1,254,458	1,290,336
現金及び現金同等物	687,882	783,338	社債及び借入金	155,750	170,003
営業債権及びその他の債権	943,708	993,549	営業債務及びその他の債務	903,959	923,272
棚卸資産	609,635	550,291	その他の金融負債	27,230	16,483
その他の金融資産	290,011	151,122	未払法人所得税	29,979	53,609
その他	84,782	85,533	引当金	69,349	69,295
			その他	68,191	57,674
非流動資産	3,302,808	3,200,584	非流動負債	798,033	699,788
有形固定資産	1,643,461	1,591,207	社債及び借入金	408,096	303,847
無形資産	81,744	76,968	その他の金融負債	7,906	10,119
その他の金融資産	1,374,786	1,330,820	退職給付に係る負債	246,014	245,387
持分法で会計処理されている投資	95,266	88,718	引当金	1,136	1,515
退職給付に係る資産	52,329	53,864	繰延税金負債	116,618	121,272
繰延税金資産	28,594	35,020	その他	18,263	17,648
その他	26,628	23,987	負債合計	2,052,491	1,990,124
資産合計	5,918,826	5,764,417	資本		
			親会社の所有者に帰属する持分	3,704,933	3,598,321
			資本金	187,457	187,457
			資本剰余金	273,089	265,985
			自己株式	△53,036	△57,677
			その他の資本の構成要素	559,226	528,418
			利益剰余金	2,738,197	2,674,138
			非支配持分	161,402	175,972
			資本合計	3,866,335	3,774,293
			負債及び資本合計	5,918,826	5,764,417

連結損益計算書 (単位: 百万円)

科目	2018年度 第2四半期累計	2017年度 第2四半期累計
売上収益	2,624,979	2,363,472
売上原価	△2,224,593	△1,975,776
売上総利益	400,386	387,696
販売費及び一般管理費	△247,962	△198,355
その他の収益	7,430	21,579
その他の費用	△7,475	△6,474
営業利益	152,379	204,446
金融収益	25,427	20,441
金融費用	△6,017	△4,798
為替差損益	△6,791	2,804
持分法による投資損益	5,223	3,888
税引前四半期利益	170,221	226,781
法人所得税費用	△44,866	△62,663
四半期利益	125,355	164,118
四半期利益の帰属		
親会社の所有者に帰属	114,079	154,191
非支配持分に帰属	11,276	9,927

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

科目	2018年度 第2四半期累計	2017年度 第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	270,235	251,488
投資活動によるキャッシュ・フロー	△378,358	△370,987
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,368	35,415
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,299	6,852
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△95,456	△77,232
現金及び現金同等物の期首残高	783,338	793,550
現金及び現金同等物の四半期末残高	687,882	716,318

最新のモノづくりを親子で学ぶ工場見学

「TAKATANAファクトリーツアー」オープン

「TAKATANAファクトリーツアー」は、愛知県安城市にあるデンソー高棚製作所に新設した、デンソー初の一般見学が可能な工場見学コースです。自動車部品の歴史と最新の日本のモノづくりを、多くの方々に近くでご覧いただきたいという思いからオープンしました。

工場見学コースでは、走行スピードやエンジンの回転数などをドライバーに知らせるメータの製造工程をご紹介します。



未来のクルマ社会をイメージしたアニメーションや、巨大メータオブジェ、最新の安全技術を体験できるコーナーなどを新設し、子どもから大人まで楽しみながら学ぶことができる場をご提供します。

「TAKATANAファクトリーツアー」の詳細およびお申し込みについては下記サイトをご覧ください。

WEB <https://takatana-ft.com/>



主な展示内容のご紹介



エントランスロビー

巨大メータオブジェがお出迎え。ジオラマや映像で高棚製作所の概要をご紹介します。



オリエンテーションシアター

デンソーがつくる安心・安全な未来のクルマ社会を、3面スクリーンでの迫力ある映像で体感できます。



メータ工場見学通路

100m以上の最終組立てラインを見渡せる見学通路では、メータの歴史や組立て工程をご紹介します。



プレゼンテーションルーム

メータができるまでを映像で学び、デンソーが取り組む最新の安全技術を体感できます。



ライブビジョン

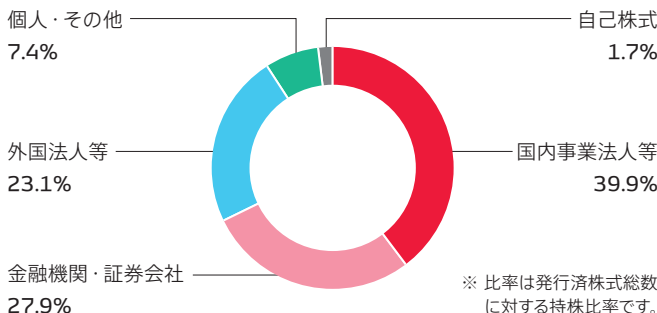
組立てラインの間近に設置したカメラで、臨場感のあるライブ映像をご覧いただけます。

株式情報 (2018年9月30日現在)

発行済株式総数 780,907,169株
(自己株式13,161,544株を除く)

株主数 70,910名

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

大株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
トヨタ自動車株式会社	188,949	24.20
株式会社豊田自動織機	69,373	8.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	44,564	5.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	35,463	4.54
東和不動産株式会社	33,309	4.27
日本生命保険相互会社	19,481	2.49
デンソー従業員持株制度会	12,735	1.63
アイシン精機株式会社	12,518	1.60
三井住友海上火災保険株式会社	9,544	1.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	8,649	1.11

※ 当社は自己株式13,161,544株を保有していますが、上記大株主からは除いています。
※ 持株比率は自己株式を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

配当金支払株主確定日 期末配当：3月31日、中間配当：9月30日

単元株式数 100株

証券コード 6902

株主名簿管理人および
特別口座管理機関 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 0120-232-711(通話料無料)

お知らせ

住所変更・単元未満株式の買取・買増請求等のお問い合わせ先

1 証券会社に口座を開設されている株主様

お取引先の証券会社等にお問い合わせください。

2 証券会社に口座を開設されていない株主様(特別口座)

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

IRメール配信サービスのご案内

IRメール配信にご登録いただきますと、投資家ニュースを電子メールでお送りいたします。ご登録はこちらをご参照ください。

<https://www.denso.com/jp/ja/investors/ir-mail/>



株式会社 デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

TEL 0566-25-5511(案内)

www.denso.com/jp/ja



環境に配慮したFSC認証紙®とNON-VOCインキを使用しています。